

開友会北海道支部 新年会

去る2月13日(月)、開友会北海道支部の新年会が、新さっぽろのオークシティホテルで3年ぶりに開催されました。その様子を、昨今の札幌の経済事情も交えながらお伝えします。

コロナの影響で2022年の総会は開催しませんでした。会員アンケートでは懇親会の開催を望む声も一定数あり、11月頃には新年会の開催に向けた検討を始めました。久しぶりの開催となった今回ですが、これまで長く新年会の会場として利用してきたホテルオークラ札幌(旧ホテルアルファ・サッポロ)は、コロナ禍中の2021年9月に閉館となっているため、新たな会場探しからスタートしました。

札幌では、宿泊特化型ホテルの建設が進む一方、フルサービスを提供する都市ホテルの閉館が相次いでいます。オークラのみならず、昨年にはホテルモントレ札幌が閉館。今年にはホテルクラブサッポロが(2024年にリブランドの上、営業再開予定)、来年にはセンチュリーロイヤルホテル札幌が、それぞれ閉館すると報道されています。札幌中心部における都市ホテルの宴会サービスは、今のところ縮小の一途を辿っています。

一方、猛威を奮ったコロナウイルスの勢いが弱まり始めるとともに、企業の宴会需要はこれまでの反動もあって相当に旺盛となっているようで、キャパシティの縮小と需要の急増が相俟って、札幌中心部のホテル宴会場は早い段階で予約が埋まるという状況になっておりました。そのため、開催予定2月の3か月前にも拘わらず、日程確保が困難となっていました。

また、昨今のエネルギー価格や物価の高騰に人手不足が加わり、宴会料金がじわじわと上がっており、旧知の仲である市内某都市ホテル社長からは「最低でも1人8千円からでお願いしたい」との注文が。もはや、税法上会議費で賄える価格帯(5千円)で、ホテルでの懇親会・パーティに多くを望むことは非常に難しくなっており、これはもう不可逆的な状況と言えましょう。

他方、開友会北海道支部のメンバーですが、新たな会員の多くは苫小牧・千歳方面に職場や居を構えており、久しぶりの新年会開催ということで出来るだけ多くの新会員に参加して頂くためには、帰りの足を考えると少しでも交通の便の良い場所が望ましい。

ということで、前置きが長くなりましたが、会場確保、費用、新会員の足の問題を総合的に勘案し、さらにDBJの出資先支援も加味して、新さっぽろのアークシティホテルでの開催に至りました。現在、同ホテルはDBJからの出向で久保田君(北東公庫出身)が社長を務めており、久保田社長を通じて諸々のお願いや調整を図って頂きました。

当日は、開友会会員21名、現役出向者2名(大橋、久保田)、日本政策投資銀行から友定常務執行役員、箕輪北海道支店長、桃井次長、山内次長、石川次長、横井課長、中山課長の7名、合計で30名の参加がありました。

久々の新年会を皆さん待ちわびていたのか、開始時間前に参加者全員が揃い、定刻に新年会はスタート。開友会北海道支部長の鈴木真人による開会の辞の後、友定常務のご挨拶、乾杯で宴は始まりを告げました。久しぶりの新年会開催となるため、参加者相互の歓談タイムを長く取るよう挨拶などを控えめとした中、和やかな雰囲気では進行していきました。途中、新会員のご紹介・ご挨拶、新年会を欠席された方々から寄せられた一言コメントのご紹介、北海道支店からの参加者のご紹介・ご挨拶と続き、最後に箕輪北海道支店長の締めのご挨拶、恒例の記念撮影にて中締めとなり、あっという間に2時間の宴は終了したのです。

さて、来年(2024年)は、北東公庫と開銀が統合し日本政策投資銀行が発足して四半世紀(25年)という節目の年になります。北東公庫に入庫した面々は全員40代半ば以降と歳を重ねており、「光陰矢の如し」と感じずにはられません。

節目の新年会の折には、より多くの会員の方々と、感染対策など気にすることもなく、より盛大に、楽しいひと時を迎えられることを願っていますね。



開友会北海道支部 新年会